

第15回 網走開発建設部 総合評価審査委員会 審議概要

開催日及び場所	平成25年10月 7日(月) 網走開発建設部 第1会議室	
委員	黒瀧 秀久(東京農業大学教授)、高橋 清(北見工業大学教授)、 三上 修一(北見工業大学教授)、渡邊 康玄(北見工業大学教授) (五十音順)	
議事	<p>1. 総合評価落札方式(二極化)の概要について</p> <p>2. 平成25年上期総合評価落札方式(工事・業務)の実施状況について</p> <p>3. 個別審査</p> <p>    工事の審査について</p> <p>        ①ウトロ漁港 西防波堤建設工事(標準Ⅱ型)</p> <p>        ②北海道横断自動車道 訓子府町 三豊改良工事(簡易型)</p> <p>    業務の審査について</p> <p>        ③西網走地区 水利施設保全対策検討等業務(簡易公募型プロポーザル)</p> <p>        ④網走開発建設部管内 河道計画検討業務(簡易公募・総合評価簡易型)</p>	
委員からの意見・質問、それに対する回答等		
意見・質問	説明・回答	
<p><b>1 総合評価落札方式(二極化)の概要</b> 特になし</p> <p><b>2 平成25年上期総合評価落札方式(工事・業務)の実施状況</b> 特になし</p> <p><b>3 個別審査</b></p> <p>①ウトロ漁港 西防波堤建設工事(標準Ⅱ型) 技術提案「施工上の課題に対する技術的所見」の評価について、提案項目の適否はどう判断するのか。</p> <p>配置予定技術者の専任配置の確認方法はどうするのか。 また、配置予定技術者を他の工事と重複して申請した場合の扱いはどうなるのか。</p> <p>②北海道横断自動車道 訓子府町 三豊改良工事(簡易型) 「土砂搬出時の沿道環境への配慮」について、2社が道路汚損防止対策を提案しているが、1社のみ評価されているのはなぜか。</p>	<p>課題への対応が、工事特性、環境、地域特性などの現地条件を踏まえて的確な工夫がみられるものを加点評価しており、仕様書等にあるものと同等で工夫の見られない提案は評価していない。</p> <p>提出書類及びコリンズ等で確認している。 どちらかの工事を落札した場合は、他の工事を辞退することになる。</p> <p>対策方法が具体的に記載されている社を評価している。</p>	

委員からの意見・質問、それに対する回答等	
意見・質問	説明・回答
<p>入札順位証明書で、評価点順位はA社が1位、D社が3位となっているが、D社が落札している理由はなにか。</p> <p><b>③西網走地区 水利施設保全対策検討等業務(簡易公募型プロポーザル)</b>  「予定技術者の経験等に対する評価」の担当技術者について、資格なしで評価が0点となっている者がいるが、会社はこれをわかっている書類を提出しているのか。</p> <p>優良業務表彰の局長表彰及び部長表彰は、年間何件程度あるのか。また、連続して受賞することは可能か。</p> <p>技術士等の資格を持たない若手技術者を担当技術者とする場合、評価点が下がるのであれば、若手に経験を積ませるという意味で、支障になっていないか。</p> <p><b>④網走開発建設部管内 河道計画検討業務(簡易公募・総合評価簡易型)</b>  網走川の河川データが少ないとの説明があったが、これまであまり調べていないということか。</p> <p><b>4 その他</b>  8月公告から、入札契約に係る総合評価落札方式が二極化(施工能力評価型及び技術提案評価型)に変更されたとのことであるが、その変更に伴い、落札の傾向に変化は見られるのか。</p> <p>価格よりも評価点が年々重要視されるようになってきているということか。</p> <p>今後、このことを認識して業者が入札することで、落札の傾向が変わってくることも考えられるか。</p>	<p>評価点と価格との総合評価で評価値が一番高いD社が1位となったものである。両社の評価点に大きな差がなく、価格で優れたD社が落札した。</p> <p>業務実績を積ませることが出来るということもあり担当技術者にしていると思われる。</p> <p>局長表彰(農業部門)は年間4社程度、網走部長表彰(農業部門)は年間1社程度で、連続受賞は可能である。</p> <p>入札方法は、業界の実態も踏まえ見直しを行ってきたところであり、工事では若手技術者を優先する方式もとっているため、業務でも若手が十分経験を積むことが出来るような方式を今後検討していきたい。</p> <p>以前から調査は行っているが、一部区間において、河床状況のデータが少ないので、本業務で調査を行う。</p> <p>まだ落札となった件数が少なく、今の時点で以前の方式と比較するのは難しい状況である。過去6ヶ年の総合評価項目別の配点推移は、配点の総点数及び配置技術者に係る配点の比率が年々大きくなってきている傾向が見られる。また、平成24年度に発注した施工能力評価型の試行工事を一つの事例として、従来の簡易型と施工能力評価型で評価点及び評価値を試算したところ、配点等の違いにより各社の総合評価順位に相違が生じている。</p> <p>傾向としてはそうである。</p> <p>二極化を8月から始めたところであり、落札傾向の変化に係る資料がまとまった段階で各委員に説明したい。</p>

委員からの意見・質問、それに対する回答等	
意見・質問	説明・回答
	<p>なお、落札方式については、今後も状況を踏まえながら変えるものは変えて行きたいと考えており、各委員からの意見もいただきながらより良いものにしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>